

# ひろば大代

NO.295

大代公民館

H16.2.23

20歳おめでとう

## 成人式を終えて

本郷 日向 望



成人式を終えて僕はいつもと変わらない日々を過ごしています。成人したという事は一人前の人間となる事だし今まで見逃された事もそうはいかなくなるという事になるわけです。

社会では犯罪の手が広がっている中、僕もその社会に交わっている身という事を自覚しなければいけません。いい人、悪い人を判断して他に流されないようにしたいと思います。もちろん自分の信頼できる人の考え

は取り入れこれからの人生に役立てたいと思います。僕の友人には悪い人はいないので大丈夫だと思えますが、人間は周りの人の影響を受けて変わ

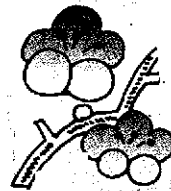
っていくものだと思います。成人式の後、中学の同窓会がありましたが見目は変わっていても性格は変わって

いなくてよかったなと思えました。時代はあつという間に変化していき僕の寿命も短くなつていきます。

これからの人生を楽しくしていくために僕は人づきあいが一生ついてくる事だと思えます。良い悪いを判断し、人とのトラブルを乗り越えてこれからの人生を頑張つていきたいと思えます。

## 雑感

八反田 森 千佳子



年女……何回目と考えたくない年になつてしまいました。

聞いたところによると最近の実年齢の七ガケが精神年齢らしい。そうすると私も、うーんまだまだ若い年のはず

# 今年こそよい一年に……

ではあるが、昨年秋頃から怪我が絶えない。身体的には年相応らしい。以前「申年」は、世の中が荒れると聞いたことがある。

確かにリストラ、自衛隊の海外派遣、増税、年金の減額、就労年齢延長、天候も、どか雪が降ったかと思つたら春のような暖かい日、人や動物に関わらず起こる伝染病などなど我々のまわりのかぜもいろいろ、先の見えない事もいろいろ、どんな事があるうと、常に柔軟な考えを持ち健康に気を付け申年に良いと言われる赤い……を着用してこの一年を乗り切りたいと思えます。

## 遺囑

山田 渡利ミヨコ



ポストに私宛の一通の手紙が。誰からかな？中を見ると公民館より原稿の

依頼。文書は一番苦手なのに困ったなア  
断るのなら早く…と思いつながら、日一  
日と過ぎてしまい、もう書くしかな  
ないとペンを取りました。

今年も申年、待っていた訳では  
ありませんが、やってきました還  
暦の年も真正銘で受け入れたく  
ない気持ちです。

いままでを通して以前はあまり  
深く考えた事はありませんでした  
が、今日まで何をしてきたのかと  
しきりに思い、走りまくって来た  
感じでした。

50歳前から体調を崩し更年期  
(うつ病)になり、何事もやる気  
をなくし自分でどうして良いのか  
分からず挫折し、とにかく落ちる  
ところまで落ちました。良くなつ  
たかと思うとまた振り出しに戻り  
の繰り返しで、家族に支えてもら  
い友達に支えてもらい、少しづつ  
自分を取り戻しました。感謝して  
おります。本当に長かったです。

ただ一言しんどかったです。  
これからの残りの人生を自分の  
性に合うようやれる事をやり、好きな

## これから健康でのんびりと

事を楽しんだりしたいと思います。健  
康に一番気をつけてゆつくり、のんび  
りとやっていたら最高です。

### 還暦を迎えて

本郷 室田佑子

私は昭和十九年、申年の生まれで  
す。長男夫婦が、還暦の祝いをして  
くれると言った時は、正直そんなに  
年をとったのかと思い、嬉しく思  
いませんでした。

何故かと言うと、自分の若い頃六  
十歳の人を見ると、年寄りだと思っ  
ていました。自分がその年になり、  
少しもそんな気がしないのです。で  
も現実には現実。

今度、次男の家族がいるタイへ行  
かせてもらう事になり、喜んだり、  
感謝しながら出発の日を待っており  
ます。



今までの六十年は、学生時代、寮に  
住んでの会社勤め、結婚して子育て等、  
色々な思い出があります。

これからは孫の成長を楽しみ、家族  
の健康を祈り、十二年先の申年も元氣  
で迎えたいと思います。

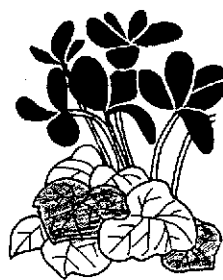
### これからもよろしく

上飯谷 下垣 公人

月日の経つのは早いもので、私も今  
年1月還暦を迎えました。

振り返ってみますと、学校を出た後  
大代に残り、2、3年働いて居ました  
が、都会にあこがれ大阪に就職しました。

当時は、日本の景気も大変良い時期  
で、大阪万博、東京オリンピックなど  
楽しい時代で、一生大阪で暮らすつも  
りであり、仕事に遊びに、結構楽しい  
生活を送っていました。



が、母の死を期に、長男と言うことで、絶対帰るべきだとの親や親戚のたびたびの説得で、将来の不安を感じながら、昭和49年3月、子供の小学校の入学に合わせてUターンをしました。

その後、農業機械の販売会社に就職、4年間勤めて53年に独立をさせていただき、上市の方で10年間お世話になりました。

平成元年に念願かなって現在の場所に店舗を新築し、今日迄26年間一生懸命に働いてまいりました。ここ迄これたのも町民の皆様の暖かいご指導とご支援、お引き立てを頂いたおかげだと思心より感謝し、お礼を申し上げます。

近年は米余りや米価の下落などが災いして、若い方の農業はなれど、農業就労者の高齢化が進み、毎年何軒かの方が農業を辞められています。私にとって大変寂しい限りです。

今後は健康に注意しながら、今まで以上に町民の皆様のお役にたてる様頑張つて行きたいと思っております。これからも家族共々よろしくお願い致します

## 「申」年に願うこと

川上 熊谷 徳夫



今年「申」年 私六回目の年男、歳を重ねて七十二歳になります。

よく謂われる日本人男性の平均寿命を七十八歳とすれば、平均余命はあと六年：「長いようでも有り」また「長くないようでも有る」。改めて想いを致すと、凡人ですので複雑な心境です。

今まではあまりにも無防備に生きて来たのではと反省しています。しかし寿命はあくまでも天命「神のみぞ知る」もの、私に残されたこれからの人生、目的意識を持ちながら、リズミカルに頑張りたいと思つて居ります。

## 目的意識を持ちながら、リズミカルに

私達世代が生まれた時は、あたかも一九三〇年代、日本の大國意識の強さが、その後の満州・支那事変へと発展し、果ては第二次世界大戦へと繋がり、一九四五年、日本は戦争に敗れ何もかも失いました。私も父親を亡くし“どん底”を味わいました。多くの血を流し汗と涙で勝ち得た今日の平和、保ちつづける難しさをつくづく感じています。

戦争を知らない世代の政治家達が、世界第二の経済大國に相応しい国際貢献を叫ぶのを聞くと、変な大國意識は歴史の過ちを繰り返すではないかとさえ感じます。

理屈は如何有ろうとも、戦争は二度と御免です。奇しくも今年「申」年、本来の意味である「魔が去る」の去る「申」、去る「年」に成る事に切に願う者の一人です。



## 干支（えと）について

椿 高崎 章

干支について特別興味がある訳ではありませんが、年男と言うことで少しばかり調べてみました。

今年甲申（きのえ、さる）年、申と言えば猿を連想して色々なことをいわれますが、申と言う字は元は申（うめく）という字であって、うめくとは草木の果実が成熟して固まっていく有様を示したもののようです。申年は結果を出す年ではなく結果に向かって固まっていく年のことです。

猿については猿の烏帽子とか猿の尻笑い、又猿も木から落ちるなど戒めの言葉もあります。

甲申は60年に1回、前回の甲申は昭和19年で終戦の前年です。前述しました様に終戦に向って固まっていった年

と言えます。

私は19年はポナペ島で毎日空襲を受けておりました。幸いにも元気で生還させてもらい、7回目の干支が廻って来ました。誠に有難いことであります。「猿の尻笑い」を慎んで余生を送りたいものと思えます。

※注 猿の尻笑い＝他人の事をいつて笑うこと

## 五十年前のこともたちを想う

関西高山会副会長 中本 弘

私の恩師、原田萬里先生から昨年「五十年前のこともたち」の写真を集めてお借りした。

私は、それを見て「懐かしい」と想うとともに、私のこども時代を偲ぶどうであったか、基本的な生活まで考えた。この写真集は、故郷でこども時代を過ごした方々にお見せしたほうがよいと考え関西高山会員・東京石見高山会員の方々にお見せした。



# 心に耐え忍ぶ気持ちを

関西高山会総会では「懐かしい」という言葉を聞いて、お見せして良かったと感じた。さて五十年前の基本的な生活を衣・食・住で考えた時に、例えば私の場合は、衣服は普段はつぎはぎだらけの服、履物はゴムぞうりであった。食べ物もなくて、ひもじいし兄弟姉妹のけんかは食べ物主であった。住む家もあばら家であり、先生の家庭訪問が恥ずかしいくらいであった。しかし、私以外に多くの同級生、当時のこどもたちはこんな生活が普通であった。恥ずかしい感じはしなかった。よって今から考えれば、心と体が、バランスが取れて特に心に耐え忍ぶという気持ちが自然に出来上がっていたと思う。

今はどうであろうか、耐え忍ぶという言葉は死語になつてしまひ、他人のことばかり気にして、自主性がなく、自己中心になり思いやりのない感じを受けるのは私だけであ

ろうか。しかし、次の詩歌を読んで、ああすばらしい考えをしていると感じた。

ある新聞に、十四歳の女の子がアンバランスという題で次の詩歌を投稿していたので紹介したい。

### アンバランス

わたしはいわゆる

思春期真っ盛り

反抗期真っ盛り

というやつで

とても不安定

だと自分でも思う

でもそんなの皆同じで

誰でも

いつでも不安定で

バランスのとれない

生き物なのだ

人間というのは

立てなくなったら

あの雲のように

形を変えながら

浮かんでればいい

私は今、六十四歳である。この詩歌

の作者は五十年前の私と同じ年齢である。すばらしい詩歌であると感動した。

### みんなでわいわい

#### 男の料理教室

当日、不安げな表情で小学校の玄関に集合した男の人数名。「今日は料理の日だったよな？」と、それぞれ確認の挨拶を交わしながら、今度は楽しく二階の家庭科室へ…。

早速それぞれ用意したエプロンを身につけ、ここにこ。



市の健康長寿課より、角保健師さんと松井栄養士さんに指導して頂きながら、みんなで料理に挑戦！

まずは米から、「へえっ、米を炊くのかな？」「そうですよ」……。

どうなることかと思ったら、みんな、てきぱきと動いて最初にちらし寿司の卵焼きが出来ました。作り方もホットプレートで厚焼き玉子を作った班や、フライパンで全部卵を入れて焼いた班や、いろいろ卵にした班など、それぞれ個性的なやり方で面白い。

「大根のいちよう切りつてどんなかなあ？」などと聞きながら、楽しく進んでいく料理。

時々、隣の班の料理も見物に行きながら、(ふーん、)と納得。

心の中では(でも、うちのが一番うまげに出来てる)と思ったかどうか？

何はともあれ、無事にそれぞれ器に盛り付け、料理は出来上がりました。

献

立は、江戸、ちらし、大根、油揚げ、の煮物、ほうれん草、ごま和え、とろろ昆布のすまし汁。

みんなで作った男の料理、美味しく出来て、皆さんお疲れ様でした。

お家でも挑戦してくださいね。



**お知らせ**

**○一万円札の会 優秀賞受賞!**

会長 藤井房子

昨年12月16日に日原町で開催された黒皮品評会で中国農政局長賞を受賞しました。

この賞は全体で言えば二位に当たる賞です。これを励みに更に品質の良いみつまた栽培を心がけようと会員一同頑張っております。



\*\*\*  
\* 3月行事予定 \*  
\*\*\*

▼6日(土) 町並みウォッシング

午前9時～12時大代公民館集合  
どなたでも参加できます。

▼7日(日) 婦人会総会

▼14日(日) 地域交流事業

大田高校吹奏楽部演奏会

午後1時30分～15時

大代小学校体育館にて

▼14日(日) 福祉弁当

▼16日(火) さくららんぼ教室

▼23日(火) 連合自治会

**○大代公民館より**

下市 藤田薫郷様

金一封の御寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

下市 佐藤京子様

山陰中央新報「キヤスタ」200号」を記念して公民館にポットを頂きました。大切に使いましょう。

**○大代地区社協より**

下市 藤田薫郷様

香典返しにかえ金一封の御厚志を頂きました。厚くお礼申し上げます。